

ほとんど毎年、冬になると一羽だけで訪れてくるのがジョウビタキ。大きさは雀ほど、今年も年明け早々にやってきて毎日見かけるようになりました。

シベリアや中国北東部で繁殖し、冬鳥として日本へ渡って来る遠来の客です。非繁殖期は強い縄張りを持つので、そこにいるのは常に特定の一羽ということです。



ジョウビタキのジョウは、銀髪を意味する「尉」の字で、文字通り頭部は銀髪です。

遠来の客なので日本人に興味を持っているせいか、庭を耕していたら数メートルのところまで近寄ってきて、私の作業をしげしげと観察していました。これは数年前の出来事で、その時のジョウビタキの写真です（前頁の2枚）。

年によっては、鶯色の目立たない色彩の雌が訪れることもあります

（左下の写真）。

いつ頃わたってきて、いつ頃故郷のシベリアへ旅立つのか、調べてみたら、10月ごろから4月ごろまで滞在、この文を書いている2月20日頃はまだ見かけました。

動くことが出来ない植物と違って動物は移動が自由、野鳥たちは環境の変化にとっても敏感だから、毎年見かけるこの鳥が見られなくなる日が来るかもしれません。

（山の根在住 鈴木 為之）

編集後記

最近の新聞を読んで今更ながら驚く記事があった、米国の巨大IT企業GAF A（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）4社の時価総額が日本円換算で約430兆円で国ベースのGDP規模と比較しても米国、中国、日本、ドイツに次いで5番目の規模になるという。

世界の時価総額トップ50では2019年現在で米国が32社に日本は1社（トヨタのみ）、1989年のバブル期には日本企業で30数社が世界のトップ50に入っていたのだが、ここ30年の間にIT産業の隆盛により、世界の経済の潮目も変わったのだと云う。失われた20年を経て高齢化の進行と相まって世の中に余裕が無くなってきている様に感じる。社会も地域も新たな挑戦を求められているのだろう。

やや形苦しい話となったが、必ずしもIT、SNSに強いとは云えない自分ではあるが、地域の問題解決、活性化に専門家の知恵を借りてITを有効活用したアプリケーションの可能性等追及しようかと根拠もない妄想にかられた。

事務局長 石井 達郎

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第35号（準備会から通算第56号）

発行日 令和2年3月7日

発行所 逗子市久木2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・・・2020年度総会・・・

4月25日（土）14：00～16：00に決定

・・・コロナウイルス（新型肺炎）対応

2月28日「みんなの食堂」中止・・・

昨年の後半より中国武漢を中心に新型肺炎の発症が確認され、今年に入って一気に感染が拡大し中国では未だ感染の勢い衰えず、遂に日本にも感染者が確認され、今や毎日の様に新型肺炎に関するニュースが流れ、現在感染ルート不明の3次感染、4次感染者の発症が報道されています。現在厚労省では新型肺炎の対応薬が未だ開発されておらず、感染防止の対応として不要不急のイベント、人込みは極力回避、マスクの着用、入念な手洗い、うがい等を徹底する様奨励しています。かかる状況の中で2月28日に予定されていた「みんなの食堂」は中止となりました。今後「みんなの食堂」は新型肺炎対応として、当面開催休止とし状況が沈静化するのを待つことと致します。皆様も基本的な対応に留意して充実した日々をお過ごし下さい。

令和2年2月度役員会

令和2年2月1日（土）13時30分～15時30分、久木会館B室で23名（うち役員14名）が参加して開催されました。主な議題は以下の通りです。

（1）事務局からの連絡

①第6回住民自治協議会連絡会（1月24日実施）

各住民協から出された交付金要求については、これから議会に提出され、その後決定されるとの報告があった。また、各住民協との間で情報交換を行ったが、その中で、各住民自治協議会の課題は様々で、地域に偏っている課題が多い

こと、また、自治会・町内会と住民協との相対関係の考え方に明確な差があることが報告された。

②放課後学童保育について

12月9日に、教育部から学童保育の現状と課題について詳細な説明があり、低学年児童の終業から15時まで居場所、及び外遊びの場所につ

いて久木会館の活用が考えられないか諮問された旨説明された。当問題は地域の重要課題として認識はしているが、久木会館は市民協働部から指定管理の委託を受け地域住民の活動拠点としての運営を目指しており、教育部の学童の活動拠点としての運用は一般の会館利用者との調整を要することが推測され、先ず教育部と市民協働課で協議する様調整を依頼し、その協議の結果を受けて拠点部会で検討することとした。

③新拠点部会、久木会館の運営体制について
住民協ひろば2月号に掲載された、「拠点部会を基に新しい部会の立ち上げについて」の内容が説明された。昨年4月以降9ヶ月間を懸け「久木会館活性化プロジェクト」として組織基盤強化、運営の効率化、収益力の改善、会館利用の活性化として種々の見直し検討を行い、相応の成果を上げてきたが、会館運営の抜本的な強化を図るべく従来の拠点部会を会館の貸館業務に特化した「会館運営部門」と地域の拠点として広域の拠点運用、各種イベント企画、行政との調整等の機能を持った「新拠点部会」とすることを検討中であり、新拠点部会のメンバー、活動内容などについて2月13日に検討会を行う

(2) 審議事項

各部会代表から、現況報告、全体への協力要請事項等

①減災部会：a)地域マップは最終チェック段階にあり、終了後印刷に回す、配布は費用の関係全世帯にクリアファイル入りで配布するのは不可能なので、紙のみで配布することとする、クリアファイルは残った費用で作成し、イベントなどで配る程度とする予定である由。また、本日配布の地図の訂正箇所があれば、至急連絡するよう要請された。

但し紙の地図のみの配布では各家庭で紛失する可能性ある事から、減災マップの注意事項を印刷したクリアファイルをセット商品全戸配布すべきとの意見も根強く再検討する方向である。

旨報告された。

④令和元年度 会計状況について

地域づくり交付金の残金については、25%繰り越し可能だが、必要な経費は来年度予算として要求し、全額返金する様、市より指示された旨報告された。

⑤山の根踏切問題

協議会準備会が都市整備課、JR 東日本、山の根2・3丁目自治会役員など関係者出席のもと、開催されたことが報告された。今後の協議会の在り方、メンバーなどについて議論があり、メンバーとして池子の住民、踏切の反対側の住民も入ることを提案した旨報告された、尚、本件は山の根2・3丁目自治会が中心として対処することとし、住民協は後方支援する旨確認された。

⑥令和2年久木小学校区住民協総会について

令和2年総会を4月25日14:00~16:00に開催する予定であることが報告された。各部会の代表者に、今期の活動報告、来期の活動計画、会計監査を受けるための会計報告などを取り纏めるよう事務局より指示された。尚、具体的な取り纏め日時、資料内容などについては、今後逐次指示するとの由。

b)配布資料「地域住民の方と共に考える減災活動」の内容について説明あり。

本件は山の根自治会での研修として計画されたものであるが、内容が有益なので、住民協事業としての実施が提案された。本件は先ず避難所準備委員会と減災部会で協議し、その結論について住民協役員会で審議することとした。

②拠点部会：会館運営体制、新拠点部会については既述の通り。

③ふれあい部会：「雑巾サロン」開催について、住民協ひろば2月号に掲載された「雑巾縫いサロンを開く事になった長いお話」の内容が説明された。2月11日にサロンを実施するので、多くの方の参加をお願いしたいとの要請があった。

④こども部会：1月31日(金)久木会館にて「みんなの食堂」を開催した。参加者は121名、

今回献立におでんを出したところ、好評だった旨報告された、尚3月は休み。

部会報告

ふれあい部会報告 龍村敦子

「雑巾縫いサロン」

2月の「ひろば」に「雑巾縫いサロンをひらくことになった長いお話」のことを書きました。今月はその結果のお話です。さあ、吉と出たか凶とでたか・・・おかげさまで大吉とでました。2, 11のサロンには39人の正真正銘の老若男女が集いました。集まった住民は山の根自治会、親交会、久木連合町内会、ハイランド自治会、さらに校区をこえて沼間、池子、小坪からも人が人をよんでの大所帯。その中には男性2人、小学生姉弟そして2歳の幼児が含まれています。特記すべきは昨年秋以来数か月ぶりに外出された94歳の親交会の方、脳梗塞後サービス以外はじめの地域活動だという山の根自治会会員が来られたこと。お二人は中部包括支援センターからの情報で誘うことができました。会場がほんわかした暖かい空気で満たされていたのは日当たりや手作りおやつが沢山並んだせいばかりではないはず。まさに

「ふれあい」の空間でした。

地域のコミュニティが重要であると言われる続ける中、イベントで人が集まるのはやはり「人」から「人」そして誰かの役に立つかという「役立ち感、社会貢献」なのだと改めて納得しました。夏休みには小学生といっしょの雑巾縫いサロンが予定されています。

追伸：

①雑巾販売は2月28日の「みんなの食堂」でおこなう予定でしたが、食堂が中止となったので、変更します。

②広報ずし4月号「住民自治協議会特集」で雑巾サロンが紹介されます。

トピックス

季節通りと季節外れ(其の2)

先月は季節外れの冬に咲くバラを紹介しました。今月は、季節通り2000キロ



を飛んでやってきた「ジョウビタキ：シベリアからの訪問者」を紹介します。

冬は鳥がよく見られる季節、よく話題になる白鳥や雁もさることながら、身近では目白やシジュウカラが、餌を求めてか群れを成して飛んでくるのが見られます。